

日本体操競技・器械運動学会 第31回学会大会

シンポジウムⅠ：器械運動

「器械運動の学習評価について」

〈コーディネーター〉

東京学芸大学 仲宗根 森敦（なかそね もりあつ）

〈シンポジスト〉

さいたま市立栄小学校 佐藤 亘（さとう わたる）

習志野市立津田沼小学校 佐藤 克博（さとう かつひろ）

〈シンポジウムの概要〉

これまで、本シンポジウムでは器械運動に関する多くのテーマを扱ってきました。今回はどのように器械運動の学習評価をしていくのか、というテーマで現場で器械運動の指導実践を行なっている2人の先生をお招きし、授業の様子や生徒の学習評価の報告をしていただきます。佐藤亘先生からは、技能の評価規準を教員間で共通理解を図り授業を進めることを前提として、評価規準を具体的な動きの言葉で表し、基本技と発展技の動きの映像化をしながらの授業実践の報告をしていただきます。60年以上に渡り「体育を中核とした人間形成」の考えを据え置いて器械運動の授業研究を行なっている津田沼小学校の佐藤克博先生からは、どのように確かな知識・技能の習得を目指していくのか、という視点より、技能を一方向的に教え込むのではなく、時に子どもが自分で気が付いていくように工夫をしていく実践の報告をしていただきます。平成29年7月に文部科学省より出された新学習指導要領解説では「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」といった観点別の評価を用いることを示しています。本シンポジウムでの情報交換や授業実践の報告から、その評価のヒントとなるような情報提供をしていきます。